



### 7 職人

伊佐津川河口部左岸と高野川との間に位置する。田辺城前に刀研ぎや金具細工などに関わる職人の家があったことに由来する。すでに細川氏の城下町経営時代から本町として地子銭免除の町屋であったと言われている。



### 8 七日市

池内川と真倉川（現在の伊佐津川）の合流地東岸に位置する。地名の由来は、7の日に市場が開かれることによるという。昔は万願寺も一部であったという。また、三日市も同様に3の日に市場が開かれたことによるという。



### 11 宮津口

高野川河口部に位置する。江戸期は田辺城下西町の一部で、城下から宮津方面への街道口にあたるため宮津口と俗称されていた。「田辺旧記」「丹後旧語集」などによれば「宮津口」には見張番所や足軽長屋があった。



### 9 鹿原

地名の由来は河原が転じたもの。地内には若狭道が走る。金剛院には「鹿原山慈恩寺金剛院」があり、名称の由来となっている。金剛院は平城天皇の皇子高岳親王（真如法印）が創立したと伝えられ、伝説によれば親王が在京中に鳳凰に誘われて当地に至り、建立（建設）したものとされている。



### 10 成生

鳴生とも記し、若狭湾の東に面する。地名の由来は、崇神天皇の期間に、日子坐王（ひまゐり）が天皇の命令により陸耳御笠（くがみみのみかさ）を征伐に向かう途中、当地で甲冑が鳴り動いたため、鳴生と名づけたことによるという。村名は慶長7年の検地の時には「成生村」であったという。



### 12 女布

高野川支流女布川上流に位置する。女布村には古く「襦布」の字が使われていたという伝承があり、実際に女布地区の金峰神社奥の院は襦布社である。昔は万葉がなで「襦布」「丹生」「仁保」と書かれた。「爾」の同意である「汝」から「女」となったと言われている。



### 13 万願寺

満願寺とも書く。伊佐津川右岸に位置する。昔は七日市の一部であったが、のち独立したと伝えられている。地名の由来は地内の満願寺の寺名が転化したもの。満願寺は大和国長谷寺の観音像の余り木で十一面観音像を彫刻したところ、紫雲が横に長く引き、宿願成就したことからその名がついたと言われている。万願寺とうがらしはここが発祥である。

